

## 第8回ほほえみフェスタ（お陰様で大盛況でした）

### 小林 豊機（常務理事）：平成28年10月27日

爽やかな秋空に恵まれ、ほほえみフェスタも大盛況で終わることが出来ました。職員の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

当日は、ご利用者・ご家族様を始め多くの参加者の方々にとって、楽しいひと時を提供できたと思っています。このことは5月早々から榎本実行委員長を先頭に、企画や準備に着手し、ほほえみグループ全体の行事として実施出来たことの成果だと思えます。

①各事業所が、各々コーナーを受け持たれ、焼きそば・たこ焼きコーナー

では、石川理事長もクリニックのスタッフとの共同作業で売上げに貢献してくれました。

②ご利用者の方々の手作り作品の展示ショップを始め、各コーナーの明るく元気な対応は、団欒広場を盛り上げ、人で溢れ壮観でした。

③気になっていました駐車場整理も、担当スタッフの手際の良さでトラブルもなく何よりでした。

④参加者からは、「今回は送迎をしていただいたので、参加が出来て楽しい」「退院してきたばかりだが、お誘いいただいたことで、デイを利用したい」との声も寄せられました。

⑤フェスタと重なった東京都荒川区の民生委員40名の施設見学も、相談課で対応され「綺麗な施設ですね。素晴らしい

とのお褒めと共に「勉強になりました」の言葉もいただきました。

何事も周到な準備と組織力ですね。

## 事故防止ゼロを目指して！

### 小林 豊機（常務理事）：平成28年6月27日

職員各位

梅雨空の毎日ですが、ご健勝のことと存じます。

過日、ユニットリーダー会議を傍聴させていただきましたところ、現場の事故防止について熱心な意見交換が交わされていました。

谷口ワーカー長からは、いま全般的にヒヤリ・ハットの報告が少ないこと。報告がないユニットもあり、事故につながりかねないとの指摘をされていました。

Tリーダーからは、「気を付けても人の対応でもあるので、事故は避けられないが、自分のユニットでは”事故ゼロ”を目標に頑張っている」

更に、Hリーダーからは、「余り”事故ゼロ”を強調すると事故隠しにつながることもあるので、丁寧な指導も大切だ」との発言。

尚、オブザーバーの上山総務課長からは「現場として、月間約30件の事故発生に抑えたいとのこと。施設として少ない数字と思われるが、ご入所者様にとっては、その一件の事故で、人生が変わることがあります。骨折で一生涯を車椅子や寝たきりになるなど重大なケースになることもあり、”事故ゼロ”を目指しましょう」とのコメントをされていました。

介護現場を預かる介護職員はもとより、看護課、相談課の皆さんも事故防止への気配りをお願い致します。

### 小林 豊機（常務理事）：平成28年5月27日

先頃、話題のトランプ米国大統領候補の自伝を読みましたが、大統領としての資質は別にしても、ホテルやマンション経営など不動産ビジネスに能力を発揮して成功を修めた人物ではありません。同氏の本で「不動産でも手入れの行き届いた物件は高く売れる。特に景気が沈滞しはじめると清潔さが大いに価値を持つようになる」と述べています。

私達の「ほほえみの郷」は、清潔であることで評価をいただき、ご入所やご利用選択の大きな動機になっています。

昨今、ショートステイに応援をいただきながらも厳しい入所状況の中で稼働率を支えているのは、「清潔な施設」の評価があつたことと思います。ただ、このところご入所者の方から「汚れているのよね」など耳にすることもあつたと心痛む思いもします。「ほほえみの郷」にとって清潔は生命線だけに、是非仕事のチョットした合間に出来る清掃を心掛けて下さい。

尚、いま法人で人事評価制度の導入の管理者研修を重ねていますが、評価の第一位に清潔性を重点にしています。

法人も職員の皆さんと協力して、更に清掃には力を注ぎ、ご入所者の方のみならず職員にとっても快適な環境を提供していきたいと思ひます。

## 新年を穏やかにスタート出来ました！

### 小林 豊機（常務理事）：平成28年1月27日

(1) 今年は今（さるどし）。本来「しん」と読み「のびる」の意味でもあり、また病や厄が「去る」の云われもあつて、縁起も良く、神社にも祭られているとのこと。ほほえみグループも申年にあやかり、日々の業務を根底から見直していく中で成長を遂げたいと思ひます。今年も是非力を貸して下さい。

(2) 1月16日（土）「ほほえみりぼん」と「ほほえみ訪問看護リハビリステーション」が新事務所への移転を無事完了しました。意気のあつたスタッフの働きについて賞賛の言葉が多く寄せられています。

クリニック・居宅・訪問看護リハビリ・澤本さん・事務課の皆さんのパワーを改めて感じました。協力姿勢も抜群でした。事務課の穴戸さんの働きぶりは異彩を放っていました。（Y職員）

皆の団結力はさすがと思わせる場面が沢山ありました。（D職員）

ほほえみりぼんと御殿丸の統合で適正規模となり、また訪問看護リハビリとの併設で、地域の在宅介護の支援にとって大きな期待が持てます。

(3) 1月20日（水）瀬谷区の介護支援相談員の皆さん12名が来所されました。横浜市で評判の良い施設を見学とのことで、私達の施設が選ばれたことは、誇らしいことです。日頃のほほえみの接遇と介護に加えて、清掃で磨きのかかった施設が認められたと思ひます。出席者の方々から、それぞれ高い評価をいただきましたが、これに満足することなく、更に充実を期して行きましよう。

## 激動の一年、ご尽力ありがとうございました！

### 小林 豊機（常務理事）：平成27年12月25日

職員各位

あつと言う間の一年だった気がします。ご苦労様でした。

◎昨年の診療報酬の大変革に続いて、今年も又、介護保険の改革によって私共の法人でも生き残りのために、通所リハビリテーションの改革強化に取組みました。新たに、デイホールにもリハビリマシンを配置すると共に、看護師とセラピストの常駐もお願いし、運営が強化されました。加えて、廃止しました予防介護の受け皿として、5月にリハビリ（半日型）デイサービス「レッツほほえみりぼん」もスタートさせ

ハビリへの体制を整えたところです。

○老健施設では在宅重視を受けて、ショートステイを積極的に受け入れることになりました。従って、入退所も頻繁になりましたが、受けとめて頂いた現場のご理解とご協力には感謝しています。尚、新たにスタートした「ほほえみ訪問ケア

には、老健施設の支援のために介護保険では対応出来ないサービスの要請に応えることによって、単調になりがちな日常生活に、少しでも潤いの暮らしを提供する役割を担って頂ければと思っています。

○国の大変革には、医療も介護も事業転換を迫られる程、振り廻されております。しかし、ダーウィンの法則の「環境変化に順応出来なければ」勝ち残って行けません。

いままでの「やる仕事に給付する」ことから、「やった仕事の成果に応じて給付する」行政の厳しい方針に当惑いもありますが、仕事のスタイルと意識を変えることで、時代の変化にしっかり対応して行きま

しょう。  
良いお年をお迎えください。

### ご協力ありがとうございました。（ほほえみの郷横浜の7周年記念）

#### 小林 豊機（常務理事）：平成27年9月30日

去る9月12日(土)「第2回ほほえみ研修の集い」を開催しましたところ、準備期間も短く、繁忙の日常業務の傍ら、実行委員会を中心に職員各位のバックアップをいただいたお陰で、盛会裡に終えることが出来ました。

当日は、多くの職員の皆さんを始め、事業連携先の方々及びサービスご利用者様が沢山ご参加する中で、全国モデルの和光市方式の実践者でもある東内京一先生の「どう変わるか！これからの地域包括ケア」の熱い講演には、出席者一同、感銘を受けました。

国の社会保障と税の一体改革で、医療・介護の効率化が求められている今日、ご入所者様・ご利用者様への満足していただける生活支援についても知恵と工夫が必要です。

私達の法人でも①介護労力の軽減を図るための設備の充実②現場研修によるスキルアップ③他職種間の更なる連携を実践していくことだと考えます。本部制の推進で連携から連帯を目指して、しっかりとした介護支援をして行きましょう。

平成27年度年9月吉日

### 是非 ご参加下さい！

#### （ご本人、ご家族、知人、ご友人も）【9月12日（土）のほほえみ研修の集い】

#### 小林 豊機（常務理事）：平成27年8月27日

ほほえみの郷横浜もこの7月で、満7年を迎えました。

偏に、職員の皆さんのご尽力の賜と感謝申し上げます。

すでにご案内の通り、7周年記念として、地域包括ケアの先駆者として全国の先頭に立ってご活躍の東内京一先生（埼玉県和光市保健福祉部長）をお招きして、「ほほえみ研修の集い」を開催することになりました。

今日まで、ほほえみの郷をご支援いただきました医療・福祉の関係者を始め、ご入所者様・ご利用者様のご家族にもお声がけを致しまして、日頃のお礼と共に、更なるご愛顧をお願いする機会にもしたいと思います。

「研修の集い」が盛会に催されますよう職員各位のご協力を是非お願い致します。

尚、法人組織も拡充され、新体制もスタートしたところで、改めて医療・介護各部門をしっかり運営して行くために、9月1日付で、従来の局長職の名を法人統括本部長（通称本部長）に名称変更することになりました。

当日は、新たなほほえみの姿もアピールしたいと思います。

これからの法人は、チームプレーの重視に力を注ぎ、オープンで公正な運営に徹することで、関係者の信頼と信用を勝ち得て行く方針です。  
積極的なご支援をお願い致します。  
平成27年8月晩夏

## お礼のご挨拶（夏季賞与の支給にあたって）

### 小林 豊機（常務理事）：平成27年7月10日

平成27年も介護保険の改定で、法人事業も逆風に晒されておりますが、職員の皆様のご尽力もいただき、厳しさも克服しつつあります。お陰様でこの度、夏季賞与をお届け出来ました。  
プロ野球ファンの一人として、今年も7月17日からのオールスター開幕が待たれます。特に、今年は初選出が25人と全体の半数を占めるなど顔ぶれにも関心が注がれています。若手の台頭と活躍が、プロ野球の人気に結びついていると思います。

◎私達の法人でも開設当初からの介護職員で、若い世代の谷口さんがワーカー長にそして、戸賀さん・岩田多枝子さんが副ワーカー長に揃って選任され、現場に明るさと活力が感じられます。更に充実した運営を期すために、ベテランの方々のサポートをいただきながら、チームワークをもって、ご入所者様に寄り添った介護を願ってやみません。

◎今年、通所リハビリテーションが大きく変わりました。正確には、介護保険の改定で変わらざるを得なかったことが原因でした。予防介護と土曜日のサービスを廃止して、半日型リハビリ（レッツほほえみリハ）を開設することで、生き残りを図りました。環境に順応出来なければ明日はありませんね。厳しい方針転換でしたが、通所リハに元気回復が実感されます。

◎法人設立から8年、地域医療と福祉に全力投球して来ました。その結果、レストランで言えばメニューとしての事業ネットワークは整い、地域での評価も得ています。しかし、メニューは整ったけれど味については、いま一つです。自信を持ってほほえみネットワークを薦めるためにも、今こそメニューの中身の充実を図る時機だと思います。マックの「失うは一瞬。回復には途方もない時間がかかる」を教訓として、結集したチームワークで確かなメニューを提供して行きましょう。

## 小麦粉アレルギーの対応に感謝

### 小林 豊機（常務理事）：平成27年6月27日

梅雨本番ですが、ご健勝のことと存じます。

去る6月13日にテレ朝で放映された「世界が驚いたニッポン」の中で、爆笑問題の田中君の「小さなことを見逃しては、大きなことを見渡せる訳がない」とのコメントが脳に滲みしました。

最近の施設の出来事として、「小麦粉アレルギー」が思い起こされます。ご案内の通り、この件につきましては、ご入所に際しご家族との面談や入所判定会議でも十分に注意することが確認されておりました。しかし、ユニットでの食事提供の時点で「麩」が添えられていたとのことでしたが、知識や細心の注意がないと見逃してしまうこともありますね。幸いにも、介護スタッフが気が付いて、危うく難を回避出来て、ラッキーでした。食のプロも見逃したことを良く気付かれて、事故を未然に防がれたことへの感謝と共に、真剣にご入所者様に向き合っている姿に感銘を覚えました。ありがとうございました。

後日、古守施設長を先頭に再発防止のための検証と対策に全力が注がれ、給食委託の(株)レパストに於いて「アレルギーへの対処マニュアルの作成

と「献立から料理、配膳まで、一人の責任ある職員が一貫して担当すること、更に「緑色のトレー使用」等、再発防止の対策が講じられました。

ミスや事故はあってはならないと思いますが、万が一に発生した場合、速やかな報告と原因の究明、そして再発防止の姿勢が大切ですね。今回のケースがいろいろ教えてくれました。良い教訓として生かされれば幸いです。

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成27年4月27日

漸く春爛漫の時節を迎え、ご健勝のことと存じます。

ほほえみの郷の桜も7年経ちますと存在感が出て来て、あと数年もすれば花吹雪の中で花見も宴も楽しめます。

桜を話題に出来るのも細やかながら、一年以上の勤務職員に決算賞与をお届け出来たからだと思います。昨年のこの時期は、私自身も鬼神の如く大胆な経費削減に取り組み、介護現場にあっても、各リーダー自ら過酷なまでの残業を担われ、必死に現場を支えられました。

また、クリニック部門では、不慣れな訪問診療に挑戦し、これを居宅介護が支援するなど、正に総力戦の結果、危機からの脱出が出来ました。（3月末の老健稼働率が99.01%、クリニックの個人宅の獲得目標150を超える210名を達成）3月の法人理事会では、惜しめない讃辞も頂戴しました。

そして、今年度、新規事業として「ほほえみ訪問ケア」と「Let'sほほえみリハ」がスタートしますが、逆風を克服したパワーを以ってすれば、ほほえみグループの新たな飛躍への第一歩になると確信しています。よろしくご支援をお願いします。

尚、この度ほほえみの郷の節電努力がテレビ放映されるとのことです。このことは、私共との電気設備の保守契約先であります日本テクノ(株)がスポンサーを担う番組ですが、職員の皆さんの日頃の努力が視聴者の節電意識を喚起することと信じます。

平成27年4月吉日

医療法人社団 悠仁会

常務理事 小林豊機

## 寒暖の差の激しい時節、呉々もご自愛下さい

### 小林 豊機（常務理事）：平成27年2月27日

寒暖の差の激しい時節、呉々もご自愛下さい

いよいよプロ野球のオープン戦も始まりましたが、今年は、何と言っても広島カーブが注目されます。名門ヤンキースで年俸20億円の黒田投手が、高年俸が存在感のメジャーリーグから、古巣の弱小球団でもある広島カーブに4億円で復帰。野球人生の集大成にしたいとのこと、正に小説・ドラマの世界ですね。昨年のカーブの好成績に加え、メジャーリーガー黒田投手の入団は、チームやファンを熱くさせ、優勝へのマグマを感じませんか！

◎4月に新しく訪問介護「ほほえみ訪問ケア」と5月には、リハビリ型デイサービス「Let'sほほえみリハ」がスタートします。ほほえみの郷の近くの「すき家跡」を借上げ、すでに開設準備にも着手しています。このことは、平成27年度の介護保険の改定を視野に入れた瀬崎局長と小林次長の取り組みですが、敢えて減算の事業に打って出る意欲には、頭が下がります。減算の訪問介護とは言え「ほほえみ」には必要です。デイサービスは、自らが体力・機能強化を目指す高齢者の方々へのサポートです。意気込みが困難を可能にします。

皆さんの絶大なご支援をお願いします。

◎この度、新入職員の方々へのオリエンテーションを復活させることにしました。

管理部門から法人の考えや事業の説明をしていただき、しっかりしたモチベーションの中での活躍を期待したいとの思いからです。

加えて、現在、クリニック部門とは定期的なミーティングを実施しておりますが今後、その他の部門でもお願いすることになりました。とかく、日常の仕事に追われる現場をフォローする為にも、管理部門がスピード感を持って、意見や要望に係ることで、より風通しの良い働きやすい職場になればと思っています。

悩みや不安を抱えては仕事にも専念出来ませんからね。現場と管理部門との垣根が低くなることで、結集した皆んなの力を「ほほえみ」のエネルギーにしましょう。

平成27年2月吉日

医療法人社団 悠仁会

代表・常務理事 小林豊機

※追伸 節電への奮闘ご苦労様です。あと僅かなピーク期間を是非、乗り越えられるように、ご協力をよろしくお願い致します。

## 寒中お見舞い申し上げます

**小林 豊機（常務理事）：平成27年1月27日**

新しい年のスタートに際しまして、法人の近況に若干、触れさせていただきたいと思います。

今月15日に閣議決定した平成27年度予算案では、介護予算が2,27%削減されるとのことです。私達は、昨年の診療報酬の減額に続いて、厳しい状況に立ち向かわなければなりません。昨年の改定では、施設への訪問診療が実に75%も減額され、クリニック部門にとっては、深刻なダメージでした。

○しかし、石川理事長の「頑張りましょう」の掛け声で、事業の見直しによる徹底した節約と、個人宅の訪問診療を新たに150人確保することに全力で取り組んできた結果、11月には目標を達成し、12月には単月ながら減額以前の収入に戻しました。このことは、その24時間365日の在宅診療にシフトした成果であり、外部の高い信認を得たことが、石井先生の川井地域ケアプラザ協力医の選任にも繋がったと思います。

尚、今後の課題は、タイトになった訪問スケジュールを改善することだと考えます。

○老健施設では、古守施設長を中心に、連携がスムーズになったことのお蔭様で、昨年の11月から稼働率も着実に回復し、現在は高い数字で推移しています。特に、職員の方々のご紹介で、友人や知人が多くご入職され、円滑な運営に結びついております。人材確保へのご協力には、心から感謝申し上げますと共に、新入職員の方々が、一日も早く「ほほえみ」の現場に馴染まれ、持てる力を発揮していただけるよう、研修には力を入れて行きたいと思っております。

○いま、法人の在宅事業会では、①老健施設の稼働率98.75%を死守。②ほほえみの郷たちばな32人の獲得。③ほほえみ倶楽部10人/日の確保。を重点目標にして3月末には達成すべく頑張っています。

○平成27年度の介護保険の改正による逆風も、クリニックをどん底から引き上げて来た職員の方々の底力からすれば、追い風に変えられると確信しています。いまから学習を深め準備を怠りなくすることで、必ず良い結果が生まれます。

今年もよろしくお願い致します。

平成27年1月吉日

## お礼のご挨拶（この一年ご苦労様でした）

**小林 豊機（常務理事）：平成26年12月27日**

師走も押し迫ってまいりましたが、呉々も体調には気を付けて下さい。

平成26年も終わろうとしておりますが、当法人にとりまして、かつてない厳しい状況に直面しました。

なんとでも、この苦難を乗り越えて行こうとの幹部の強い意志と職員の方々の全面協力によって、なんとか危機を脱皮できる目鼻がついて来ましたこと感謝しています。

ありがとうございました。

過日の日本経済新聞「私の履歴書」には、心揺さぶられました。コント55号で一世を風靡した、コメディアン「萩本欽一さん」の人生の一コマではありますが、皆さんはどう感じられるでしょうか！？

新聞配達のほかにも、封筒の宛名書きや鉄板磨き、レストランや甘納豆屋さんなどで働いた。甘納豆を自転車で配達する途中、「おい、なんてことするんだ！」と突然、怒鳴られた。白い車を運転している中年の男性だった。荷台の箱がひっかいた傷が新しい車に付いていた。僕は全然気づかなかった。「どうしてくれるんだ」と男性はかんかん。でも、僕は名前もアルバイト先も言わなかった。「僕、母さんを助ける

ために自給370円でバイトしているんです。高校を出たら、おじさんのところで働いて弁償しますから勘弁してください」と頭を下げた。

おじさんはずっと背筋を伸ばして「そうか、私もアルバイトから始めて洋服の会社をつくったんだ。初心を忘れていた。すまなかったね」と言うと、名刺を差し出して「卒業したら、うちの会社に来なさい」と話すと、車を発進させた。僕は感動して体を震わせて泣いた。

この人が田中精一さん。その後、長いおつきあいをさせていただいた。

謝りは謝りとして素直にお詫びをされ、相手もその謝罪を受け入れたばかりかお詫びの相手を思いやる心の広さは、いま日本の社会で失われつつある心情だと思います。

ほほえみもこんな雰囲気の漂う法人にしたいものです。

良いお年をお迎え下さい。

平成26年12月吉日

追伸

- ・インフルエンザが流行しています。ノ口対策と併せて万全の体制をお願いします。
- ・節電には、尚一層の気配りをお願いします。

## 職員の皆さんへ

**小林 豊機（常務理事）：平成26年11月27日**

朝晩めっきり肌寒さを感じる候、呉々も体調には気を付けて下さい！

過日、11月中旬に開催された某フロアの意見交換の会合報告を受けましたが、少なからずショックを感じました。

要約しますと「スタッフの頭数だけ揃えても何も出来ない人はいない。指導者もいない中で、何も出来ない人を入れるなら給料を増額してもらえれば、その人の分はカバー出来る」とのことでした。

このような意見をどう感じますか？

甚々、寂しく残念な思いと共に反面、深刻な問題でもあると思います。

社会全体が人手不足の今日、特に介護は深刻です。事実、私達の施設でも職員採用には全力を注いでおりますが、人材確保に苦慮し、職員の方々への支援も求められている程です。

ご指摘の通り、採用選考に際しては、未経験者の方とも言えども適性を充分考慮することは当然のことですが、未経験者の方にも入職していただいて、高齢者を支えていただくことも大切なことと思います。

誰でも初めは未経験からのスタートですよ。

先輩として、仲間には温かい思いやりの気持ちで接して欲しいと思います。

子育てと同じで、人が育つには時間と労力を費やします。根気よく、出来る仕事を選びながら、徐々に慣れて頂くことで独り立ちもされると考えます。工夫して下さい。

介護には優しい人間性と高い知識が求められています。未経験の方にもスキルアップに向けて、真剣に取り組んで欲しいと思います。頑張りましょう！

平成26年11月吉日

## 職員の皆さんへ

**小林 豊機（常務理事）：平成26年9月26日**

しのぎやすい時節を迎え、ますますご健勝のことと存じます。

9月10日の「東戸塚」定例会合に出席した際に、石川理事長と本間看護師の往診に遭遇しました。診察を終えた直後でしたが、患者の方の元気で明るい表情と共に和やかな雰囲気が印象的でした。8月にも河野事務長と「たちばな」に立ち寄った時、たまたま安部先生と高星看護師との往診に出会いましたが、元気な会話と笑い声には私自身も元気付けられました。何んと言っても個人宅扱いの診療ですね。

今年の4月に診療報酬の大幅な減額に直面して、9月末までに何んとか減額分を補うべく個人宅150人の確保を掲げ、各院の先生を中心に職員の皆さんに頑張っていただきました。

その結果は、当初目標の3分の2の100名を確保するに止まりましたが、在宅事業部門がクリニックとの連携に真剣に取り組んでいただいたこともあって、数字以上の活力が法人に生まれました。事実、この連携を契機として、各部署の管理者が他の事業に関心を持たれ、連携を意識していただくようになったことで老健施設の稼働率も回復し、他の事業の実績も上向いて来ました。

更に、事務課が受診送迎の一翼を担うことになり、加えていまや社会問題になっております人手不足に対する求人対策を推進すると共に、現場と協力し職員研修を通じて離職の防止のために「RandC」チームも発足させました。

また、各専門職の有志が日曜出勤をされて入浴介助のお手伝いをされるようになったことも有難いことです。

人手不足でご苦労されている看護・介護の現場ではありますが、より一層知恵を出し合い入所者様、また各部署への支援にも応えるために、円滑な運営と風通しの良い現場をつくり上げて下さい。

平成26年9吉日

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成26年8月27日

残暑お見舞い申し上げます

灼熱とゲリラ豪雨の8月も残り数日ですが、過ごしやすい季節が待たれます。

この夏、普段と違った生活行動で思いを新たにさせられた体験をしました。

8月1日 炎天下の中、中山駅の手前200mの交差点で渋滞に遭遇。その折に、80歳は越えたご夫婦が、2人共、杖を突きながら、必死にタクシーを捜している姿が目にとまりました。そのうちに私の目の前の富士交通に近寄り、話をしていましたが、間もなく別の方向に行かれました。その後、空車のタクシーは、駅の客待ちに付きましたので、下車した私が「何でお年寄りをお乗せしなかったのか」と注意したところ、「お客は自分が予約したタクシーと勘違いした」と反論。状況を把握している私には、言い訳にしか聞こえませんでした。

8月15日 蓼科東急ゴルフコースで千葉在住のご夫婦の仲間入りをしてゴルフをしました。奥様から「主人は脳梗塞を患い、言語と足に後遺症、更に、心臓病も抱えご迷惑をお掛けします。」と挨拶されましたが、ドライバーの飛距離、アイアン、パターともシングルの腕前でした。しかし、数ホールを廻るうちに、100mを全力疾走したような荒々しい息遣いをされ始めたので、私から後半をカートでのフェアウェイ乗り入れをキャディーマスターに申し入れました。ゴルフ場としては、前日の雨でフェアウェイがグチャグチャになるとの心配から、当日は全面禁止したとのことでしたが、「二人乗りなら重量負担は少ないこと。又、トラブルが発生したらゴルフ場も困るでしょう」との言に「そのような状態ならプレーを止めることですね」とは返す言葉を失いました。今では、ゴルフが唯一の生き甲斐と言う人が「今年で最後かな・・・」との言葉に接し、73歳の同年として複雑な思いでした。

40余年、海外でもゴルフを楽しんできた私ですが、アメリカなどは本当にプレーヤーを大切にします。

「人の振り見て我が振り・・・」ですが、特にサービス業のタクシーやゴルフ場こそ、お客様への優しさをもっと学んで欲しいと思います。

※8月14日の拡大運営委員会で、老健施設の良好な職場環境を推進するために、「RアンドC」チームを発足させることになりました。新任の金戸事務長兼事務課長を中心に事務課の米川、遠藤さんと介護現場の岩田、塚田、遊佐、鈴木(康)さんがメンバーです。求人活動と職員個々のご相談に積極的に対応して行きます。ご活用下さい。

平成26年8吉日

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成26年7月25日

暑中お見舞い申し上げます



猛暑の折柄、熱中症など体調には気を付けて下さい。

診療報酬の大幅な減額で、深刻なダメージを蒙ったクリニック部門でしたが、素早い対策のお蔭様で、順調に回復していること感謝しております。

一時は、クリニックの一部閉鎖まで話題になりましたが、この厳しい状況にもめげず、クリニックの皆さんが真正面から向き合って来られたこと称賛に値します。

加えて、老健施設でも古守施設長を中心に、各部署が早く、スムーズな入所の対応をすることによって、病院からの依頼も増加し、稼働率も従前のレベルに戻りつつあります。法人の底力とも言えます。

このような中ですが、介護職員の離職が目につくことが少々気になります。

在宅復帰やショートステイの頻繁な入退所の業務、景気回復による人手不足の影響、家庭の都合、体調の問題など離職の事由はあると思います。しかし、課長会や採用担当の事務課が急場しのぎの職員補充でこと足りると考えているとしたら、求人活動はエンドレスです。

将来のためにもこの際、法人の方針が職員に充分理解していただいているのか。逆に、現場の声や仕事の悩みを法人が充分認識しているのか。しっかり実情を把握することだと思います。法人の主たる老健施設が、来年の介護保険の改訂に於いても自信をもって対処出来る職場環境のためにも大切なことと思います。

遅まきながら、法人として、もっと個々の職員に寄り添える職場づくりに、これから取り組みたいと思っています。

開設時のように「ほほえみの郷」で是非働きたいとの評価と活力を取り戻しましょう！

平成26年7吉日

## 職員の方へ

### 小林 豊機（常務理事）：平成26年6月27日

集中豪雨の伴う梅雨空には悩まされますが、ご健勝のことと存じます。

いま世界中がサッカーで湧いていますが、野球ファンの私と言えども日本チームの勝敗には一喜一憂させられました。

また、テレビ観戦しながらもつい老健施設「ほほえみの郷の姿に結びつけてしまうところは夢がないですね。

言うまでもなく、サッカーは11人对11人の戦いで、瞬時にパスやドリブル又は、シュートを選択しませんでした。本田、メッシ、ロナルド、メイマールなど言えども相手に囲まれ、逆にボールまで奪われてしまいます。どんなに能力が高くても周囲と協調せず、個人プレーが先行したとすれば、チームワークでの良いパスも得られず、ゴールを狙うシュートは打てませんね。

今日、介護施設は高齢者施設の大量参入によって、サッカーと同じチップに100人对100人あるいは、もっと過密な中での競い合いを余儀なくされています。

その中ではありますが、私達の法人では、在宅事業がお互いに協力し合い、良い連携が出来上がり、診療報酬の減額ダメージを払拭しつつあります。

又、「ほほえみの郷」でも古守施設長を中心に関係者のご理解を得て、即日の入所判断の対応をしていただいたお蔭で、スピードアップがはかられ、入所申込みの増加に繋がっています。

加えて、受診の増加に伴い、事務課が総合相談課に代わって、受診送迎をカバーしていただけるようになり、総合相談課は病院への挨拶や営業に十分な時間を取れるようになりました。

開設6年目、職域を越えた協力体制が出来つつあり、良好なチームに成長していること喜ばしい限りです。

私達の施設は、上から目線のスターを求めるのではなく、皆が理解し合い、足らざるところをお互いに助け合うことで今後共、「ほほえみ」の施設を目指せると思います。よろしくお願い致します。

平成26年6月吉日

## 職員の方へ

## 小林 豊機（常務理事）：平成26年5月27日

今月から水曜日も出勤していることで、いろいろな情報を耳にする機会が増えました。

例えば、横浜市嘱託の介護支援相談員によると「施設の清掃は行き届き、特異な臭いも無く、更にご入所者の身だしなみも清潔感があるとのこと。

職員からは、「入所希望の関係者が施設現場を見て入所を断るケースは皆無とのこと。反面、堂々と人目に触れる場所での喫煙していることに改善が求められます。

法人にとりまして、いま頭を悩ませていることは、機能強化型に稼働率の激減を回復させるために、昨年10月にそれを一先ず返上し、稼働率の回復を目指しましたが、思うように成果が上がらないことです。

勿論、この様な状況につきましては、いろいろ理由があると思いますが、従前にご入所者様をご紹介して来た病院や施設の話では、「「ほほえみの郷」は入所の手続きが煩雑で時間もかかる。極めて利用しにくい老健施設」とのこと。敬遠されている雰囲気を感じ取れます。

断らない「ほほえみの郷」がいつの間にか施設側の方針が優先して、速やかに入所したい、させたいと言うご入所希望者が病院への思いに寄り添う姿勢を二の次にして来たとの印象を与えてしまったことが、「ほほえみの郷」離れの一因と言えましょう。

5月17日古守施設長、松本副施設長との協議の上、今後、病院等からファーストコールされた時点で入所を前提とした準備と共に、同日中には入所判定の結論を出すことを確認しました。

尚、判定会議は継続介護の判定と共に、各部署が新たなご入所者様をどのように介護して行くのか確認する場とさせていただくこととなります。

包括支援のプログラムが充実して来た今日、病院に入院される時点で、すでに退院後の方向づけはされており、退院の際に病院から紹介される患者様は、速やかに受け入れることが社会的使命ではないでしょうか。

更なる知恵と努力によって高齢者の要請に積極的に応えられる施設を目指して行こうではありませんか。よろしくをお願いします。

## 職員の皆さんへ

### 石井 修施設長：平成26年1月27日

青山剛昌氏原作の漫画・アニメーション『名探偵コナン』をご存知ですか？主人公江戸川コナンは、事件が解明された時に「真実はいつもひとつ！」と決め台詞を叫び、難事件を次々に解決していきます。真実を辞書で引くと「本当のこと」とあります。本当のこと＝“真実”は、必ず一つなのか？そんな疑問を持たれたことは無いでしょうか？

先日朝日新聞に、ヒンドゥー教信者が多いインドで、人間と象の衝突が深刻になっているとの記事が掲載されました。ヒンドゥー教では、象は神聖な動物として崇められ、大切にされてきました。しかし、その象と人が衝突し、傷つけあっている“事実”。人間から見た“真実”は、象が丹精込めて育てた農作物を食べ、人を襲い、時には死者も出ている、我々は、自衛のために象を殺傷している。一方、象から見た“真実”は、人間が自分達の食糧庫であり棲家である森を伐採し、奪い、餌が無くなった、人里に下りて食べ物を人間から貰うのは当然である。どちらの言い分が“真実”であるのか？双方とも真実であると思います。事実を辞書で引くと「実際に起こった事柄」であり、この記事の事実は、象と人が傷つけあっていることです。その原因は、人間の森林開発による伐採があり、それにより象の棲家、餌が減少したため人里に下りてきていること？と想像されます。真実＝「本当のこと」には見る人の主観が影響を与え、一つの事実に対して、色々な見方、考え方、真実があるのではないのでしょうか。

日常生活を送る上で、当然の如く様々事象が起こり、“事実”があります。しかし、物の見方は、その人の置かれている立場や環境により異なり、色々な“真実”が存在します。事実を見極め、真実を理解することが何よりも大切な事ではないのでしょうか。真実を理解することにより、他者への思いやり、優しさも生まれてくるものと思います。職務にも生かしていければ円滑な職場環境ができると信じています。皆さんもご一考頂き、明るく楽しい環境整備に努めましょう！人の立場に思いを馳せ、他者を理解しましょう。

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成25年12月27日

今年もあと数日、体調には呉々も気を付けられて頑張ってください。

平成25年の最終メッセージになりますが、本年の「在宅復帰機能強化型」への移行には、大変ご協力をいただき改めて御礼申し上げます。

尚、結果的には、リセットすることにはなりましたが、再挑戦への貴重な経験となりました。

ご承知の通り、ほほえみの郷では、いま節電・節水に真剣に取り組んでいます。

すでに介護の現場や他の部署でもローソクの火を灯すギリギリの努力をされていることは、巡回の際でも肌で感じております。しかしながら、改めて検証をしてみますとまだ消費電力の大きな部分で見逃しもあり、改善の余地のあることも事実です。

ご参考までに12月15日の業務改善委員会での一部分を紹介します。

①1F～3F浴室の西側脱衣エリアは、遠赤外線ヒーターの位置をご入所者様の脱衣コーナーに近づけること。（取り付け位置の変更で節電）

②開設以来、午前中の入浴に際して、極端に湯の温度が低い為に、入浴に支障を来している。このことは前日に建物の配管内で残った湯が翌日に使用する時点で、冷えていることが原因。（前日に湯の残量を少なくする工夫で節水）

③特に消費電力の大きい厨房では、一日の食事が朝、昼、晩の3回なのに、4回の食器洗浄していたとのこと。おかしいですね。洗浄器の稼働や使用済食器のための保温槽利用は、消費電力が極めて大きいです。食器の数量を増やすことで洗浄は2回にも可能で、食器購入は一時的出費で済みます。消費電力はエンドレス。工夫をお願いします。

④当施設では、夜間電力割引料金（午後10時～翌朝8時迄）を温泉と一般の水に活用しています。夜の10時に給水開始、その後沸かして65℃で保温を続け、翌朝の10時過ぎに冷水を注いだ上で45℃に温度を下げ、通所リハと施設入浴が使用します。言ってみれば、私達の家庭で午後10時にお風呂に給水、65℃まで沸かし、夜通し65℃の保温を続け、翌朝の午前に冷水を加えて、45℃の温度で入浴するということです。何か変ではないでしょうか？給水・沸かす時間を後にずらし、出来るだけ保温時間を短縮すれば消費電力は抑えられます。（メーカーに検討を指示。）

厳冬の時節、無駄な電気・水道利用を如何に改善出来るか一層の関心と共に、知恵を絞っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

良いお年をお迎え下さい。

## 職員の皆さんへ

### 石井 修施設長：平成25年11月27日

有名ホテル・レストランに端を発した食品虚偽表示は、収まるどころか有名百貨店のレストラン、惣菜販売店、外食チェーン店などでも行われていたと次々に報道されました。レストランなどの格付けを行うことで有名なミシュランに掲載されている有名旅館・ホテルでも行われていました。今回の事で思い出されるのは、2000年に発生した雪印乳業集団食中毒事件です。牛乳製造工程における設備洗浄の不備が原因でした。その後、雪印食品の牛肉偽装事件も発覚し、雪印ブランドの信用は地に落ち、事業縮小を余儀なくされました。今回報道された企業もそれまでに得ていた信頼は、既に失われました。“信頼”を得るためには、長い年月と従業員の弛まぬ努力が必要ですが、“信頼”を失うのは一瞬です。改めて、日々、信頼を得よう真摯に行動することの大切さを痛感しました。従業員の皆さんも今後もこれまで同様、一緒に利用者・家族からの信頼を得られるよう頑張りましょう。

一方、インターネットなどの普及により、我々の周りには、情報が溢れています。これだけの情報社会で、何故、未だに虚偽表示などが起こったのでしょうか？情報は、そこに在るだけでは、意味を成しません。情報を淘汰・分析し、判断してこそ、その情報は情報としての価値が見出されます。食品が偽装表示されているのか？本物の食材を使っているのか？この企業は信頼に値するのか？自身の目で、舌で、確認し判断しなければなりません。判断するのは、消費者、利用者です。我々が、消費者・利用者の立場で

あれば、自身の見る目を養い、情報を判断できるよう、向上しなければなりません。逆に、我々が“情報”を提供する側の立場の場合は、選ばれるために日々努力を怠ってはなりません。我々の仕事は、人の命に係わるため利用者・行政は、特に厳しい目で見えています。その“目”に選ばれる様、信頼に足る、価値ある施設であり続けるために頑張りましょう。

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成25年10月25日

6～7年前、総務省からソフトバンクに出向していた社員が「孫社長以下、何事にも挑戦とスピードを求める大変な会社です」と言いながらも澆刺とした表情が印象的でした。

この積み重ねが、いま日本企業の時価総額でトヨタ、三菱東京UFJに次いで第3位のランクされているのだと思います。これに対して、同業のドコモは人気のアイフォーンの導入に5年の年月をかけて来たことで大幅な遅れをとったばかりでなく、顧客の大量流出を招き、かつて親会社NTTを凌ぎ、世界にも名を覇せた勢いが感じられないこと残念です。

私共の法人は、一早く在宅復帰機能強化型の老健施設に脱皮し、関係者に大いに評価されています。しかし、達成感の反面、それに伴う果実を未だ味わうことが出来ないことには、強力に推進した者として心苦しく思っています。

この要因として、一つに未だデフレ脱却が進まずにいる厳しい家計があり、二つには最近の過剰とも思える高齢者向け施設の増加、三つには消費増税に伴う社会保障制度改革の具体策が見えないことなどが壁になっていると考えます。

いま、私達はこの壁を乗り越えるために、自らの知恵と努力を振り絞り、課長会を中心に真剣な意見交換をしています。

最大の課題は、落ち込んだ稼働率アップのためにまずは、積極的なショートステイの採用を図ることです。そのためには、

- ①タイムリーな入所対応として水曜日だけではなく土曜日の入所も検討する。
- ②ショートステイ対応型のユニットを配置する
- ③総合相談課にショートステイの担当者を配置。
- ④入所時の看護課及び介護課の負担軽減のために入所者接遇のコーディネーターの配置。
- ⑤ケースによっては、施設長及び担当者間の持廻りでの入所の可否等、スムーズな入所業務の改善に熱心に取り組んでいただいています。

折角、達成した輝かしい強化型老健施設の旗を職員お一人お一人のご理解とご協力で支えていただきたいと思えます。よろしくお願い致します。

平成25年10月吉日

医療法人社団 悠仁会

常務理事 小林豊機

二伸

日頃 節電にご協力いただいておりますが、

空室について

- ①エアコンのコンセントを抜く
  - ②電気温水器のスイッチを切る
- 等心がけて下さい。

## 職員の皆さんへ

### 石井修（施設長）：平成25年9月27日

施設の安全な運営に尽力を頂き感謝しています。“安全”は、入所者の方の安全は勿論保たなければなら

ない事は言うまでもなく、スタッフの“安全”も守らなければなりません。スタッフの安全を守れない職場は、スタッフから見放されることでしょう、そして、施設運営が立ち行かなくなってしまう。スタッフの“安全”の一つに、先日の衛生委員会で取り上げられ、今後施設としても取り組んでいかなければならない『メンタルヘルス』があります。メンタルヘルスとは、日本語で『こころの健康』です。こころの健康を維持するためには、色々な要素が必要です。例えば、

- 一人の時間と他の人達と過ごす時間のバランス、睡眠時間のバランス、仕事と遊びのバランス、休息と活動のバランス、さらに屋内と屋外で費やす時間などのバランスがちゃんと取れている。
- 
- 自分に自信を持ち、信頼出来る人間関係に包まれている。愛情を持てる相手がいて、悩みはあっても将来に希望を持ち、人生をそれなりに楽しんでいる。
- そしてストレスを受けても逆境にあっても、それを跳ね返す力、心理的回復力（レジリエンス）が備わっていること。
- そして思考の柔軟性や、自分の持っているものを知り、それを生かして自己実現していく気持。

などが挙げられます。これらが損なわれた時に、こころが不健康となってしまいます。施設としては、こころが不健康とならないよう、サポートをしなければなりません。些細なことでも、独りで悩まずに上司へ相談をして下さい。こころが不健康とならないよう自身でも日頃から実践出来ることがあります、“セルフケア”です。セルフケアには、リラクゼーションが大切です。十分な睡眠をとる、深呼吸をするなどは簡単に実践ができることです。その他、趣味を持つ、笑う、誰かを助ける、感謝をする、「～ねばならない」という思考から「～よりは～の方がよい」と緩やかに肯定的に物事を考える、など色々な手法があります。そして、忘れがちですが、“泣く”ことも大切なセルフケアの方法です。涙の中にストレス物質が含まれ、泣く事により、ストレスを排泄していると主張する学者もいるのです。男性は、泣く事に抵抗を示す方も多いでしょう、しかし、泣く事は決して恥ずかしいことではないのです、自身の心を守るために、時には、泣いてください、涙を我慢せずに流してください。勿論、女性もです。心が折れる前に。そして、セルフケアでも、解決ができないときは、周囲の力を借りてください。相談をしてください。相談相手が居なければ、局長、次長、事務長、私を頼ってください。皆さんの安全を法人が守ります。

施設長 石井 修

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成25年8月27日

残暑お見舞い申し上げます

（在宅復帰機能強化型に移行して・・・）

「ほほえみの郷は、毎日が楽しくやりがいのある素晴らしい老健施設でした。

でも早期の在宅復帰の方針から、親しみ馴染んで来たご入所者様が一人去り、また一人と去って遂に最後の一人が退所したことで、心にポッカリ穴が空いた気分になりました。」この思いは、少なからず多くの職員の方々も感じていることだと思います。

出来るだけ長く寄り添う介護が望ましいことです。

しかし、常に医師、看護師、リハビリ、介護士のオールスタッフによる切れ目のない介護システムは、老健施設でこそ可能であって、特養施設や数千万円を支払う有料老人ホーム等では対応出来るサービスではありません。その上、私共は、同じ公の福祉施設でも非課税扱いの特養施設と異なり、課税される医療法人の施設であり、収支の配慮にもしなければなりません。

常々、「長く寄り添う、断らないやさしい施設

でありたいと努力して来ましたが、超高齢化社会を迎えた今日では認められる状況ではなく、多くの方々について一日も早い在宅復帰と重度の方々への手厚い介護をお願いするに至った次第です。

「いままでの勤務体制では、疲労とストレスが溜まってしまふ。リフレッシュ可能な体制を考えて。」と若い職員からの提案を受けました。

強化型へ変身した今日、ファッションもTPOを意識しなければ。課題は沢山ありますが、岩田ワーカー長のユニットケアから個別ケアへの提案も一考と・・・。

更に、強化型導入は10年早いとの意見も聞かれます。しかし、国がゴールドプランで老健施設に求める役割を打ち出してから、目標を達成した私達の施設でもすでに四半世紀が経過しています。福祉も措置主体の時代はとうに終わり、社会貢献と法人が生き残るためにはスピードと自助努力が求められている時代です。

在宅復帰率、回転率、稼働率そして収支の均衡に配慮しながら、より良好な職場環境を築き、これからも老健施設に求められる役割を果たして行こうではありませんか。

平成25年8月吉日

医療法人社団 悠仁会

常務理事 小林豊機

## 職員の皆さんへ

### 小林 豊機（常務理事）：平成25年2月15日

2月1日 待望のプロ野球キャンプインが一斉に開始されました。ファンの一人として、今から3月のWBC大会を又、大型新人の大谷、藤浪選手の活躍を楽しみにワクワクした気分です。

ところで、地味な話題ですが、コーチとして長く番頭役を努め晴れてオリックスの監督に就任した森脇浩司監督の抱負には、胸打つものを感じました。

「微差は大差だと思っている。昨年、最下位のオリックスは個々の試合をみれば紙一重の差だったが、実はその紙一重に大差があった。常勝球団は、日々細かいことの積み重ねで少しずつでも前進している。狙ったコースに狙ったバウンドが打てる。連携プレーの成否は投手と野手の一瞬の呼吸にかかっている。自分達は、それを見逃したらば、永遠に追いつけない」と。

翻って、私共の施設では、いま運営委員会を中心に平成25年度にはハイレベルな機能強化型老健施設を実現するための議論をしています。昨年の県老健施設協会の研修会に参加した京谷総合相談課長をして「県内で在宅復帰を進めている老健は10%程度。当然ながら「ほほえみの郷」は当該施設であり、施設・職員ともモチベーションもレベルも高い」との見解。

ちなみに、11月の稼働率99.44%、在宅復帰率39%、回転率10%の数字からすれば在宅復帰率50%と言うトップの地位は射程距離にあると言っても過言ではないと思います。中重度の患者の受入れと早期の在宅復帰を目指すと言う意識変革を実践することで達成は可能であり、トップランクの評価と果実は施設及び職員にとっても大変価値あるものと思います。挑戦しましょう。

現在、週の大半をサ高住東戸塚の支援のために出向いただいています瀬崎局長が、少し距離を置いて見た「ほほえみの郷」に気付かれることも多いようです。局長の発信しているメールを再読してください。節電の折柄、無人のテラスに夜の10時でも点灯されている等々。微差の大差を生む要因にもなりかねません。

お互いに心して注意し合い高い目的に向かって頑張りましょう。

平成25年2月吉日

敬具

## 素晴らしい皆様へ

### 瀬崎 忠雄（事務局長・ケアクラウン）：平成25年2月08日

自らの力で、自らの道を歩む・・・

敗戦の翌年、石橋湛山蔵相が満を持して登場いたしました。国会の財政演説の結びに「我々は日本の前途を決して悲観すべきではない。我々は民主主義と平和主義に徹底し協力一致奮励するならば、希望の海は洋々として前面に展開している。人間は現在よりも将来の希望に生きるものであり、輝かしき平和日本の民主主義の建設がかくて成功する日を想望すれば甚だ愉快にたえない。勇気が勃然として全身にみなぎることを感ずる」と語りました。戦後、破たんしていた経済を再生すべく「積極財政」に打ってでたのです。省内ばかりか、経済学者も世論を挙げて大反対でした。湛山は一人孤立したのですが、ケインズ理論

に基づく政策は「健全財政」でも「緊縮財政」でもない湛山の信念だったようです。その後の日本の復興をみると誰が正しかったかは歴史が証明しております。・・・新しい政権に変わり日本が再び、世界の表舞台に戻ろうとしています。・・・最近の報道を見るにつけ、今度は、本当に日本は「再生」するかも知れないという「希望」を持ち始めます。そして介護・支援の世界にも改革の「嵐」が吹き荒れています。政府からは「これでもか！！」

と思われる介護報酬の見直しがされます。それも短期のサイクルでなされるようになりました。一刻の猶予もなく「方向の変換」をしなければなりません。

介護の世界ですと「緊縮財政」＝「人権費の削減」と考える運営者がいます。しかし、私達の世界では「安全を確保できる人員」を削減したら支援そのものが出来なくなります。ちょっと前の日本のように、大企業が非常勤・契約社員を多くする事により収益を上げる事はできないのです。私達の老人保健施設では、専門学校を優秀な成績で卒業して来た職員ですら、一人で夜勤をする迄に半年以上の研修と経験を積みみます。

我々は介護報酬の見直しに対応して、利用者様の支援力がマイナスにならず、削減された報酬もカバーできるような、様々な改革をしております。行政に不満を言っても利用者様の処遇は変わりません。皆様にお知恵を戴き「自らの力で、自らの道を歩む」所存であります。更なるご協力をお願いいたします。

## 新年のご挨拶（年頭の雑感）

### 小林 豊機（常務理事）：平成25年1月15日

拝啓 新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

元旦は、例年通りご入所者様へのご挨拶と幹部の方々と共に、地元の三鳥神社に初詣、2日には家族で赤坂の山王日枝神社に参拝し、事業の隆盛と厄除招福のご祈願を致しました。

特に、今年は、昇殿参拝をお願いしましたところ、幸いにも参拝者代表の一人に指名され、額賀元財務大臣に続いて玉串奉てんも出来、落ち着いた状況の中で、発展をご祈禱することが出来ました。

そもそも山王日枝神社は、江戸城の表鬼門の鎮守として崇められ、又、終戦前は、別格官幣大社として遇され、現在は、明治神宮や靖国神社と共に東京五大神宮にも数えられています。

私にとりましては、東京ヒルトンホテル（現キャピトル東急）での神前結婚式を始め、国会議員の秘書時代からの崇敬の存在ですが、加えてこの日枝神社と縁の深い徳川家康公が建立されたと言われる「川井御殿」の館跡に、偶然にも建っている「ほほえみの郷」にただならぬ結び付きを感じています。

平成25年の年頭に当たり、徳川260年の歴史にあやかり「ほほえみの郷」が、これからも栄え続けることが出来ますように職員スタッフの皆さんと共に、今年も頑張りたいと決意を新たにしています。

本年もご入所者様並びに患者の皆様にはほほえみで向き合っていきたいと思います。

よろしくお願い致します。

平成25年1月吉日

敬具

## 職員の皆さんへ

### 石井 修（施設長）：平成25年1月15日

新年明けましておめでとうございます。

時が経つのは早いもので昨年の6月に赴任し“あっ”という間に新年を迎えました。私にとって昨年は、法人、施設、入所者、そして、何よりもスタッフのためにとの思いでロンドン・オリンピック100m走金メダリスト ウサイン・ボルトさながらに、我武者羅に走ってきた、そんな年でした。今年は、走り高跳びに参加する意気込みで更なる高見をめざし飛躍をしたいと思います。皆さんのお力添えをお願い申し上げます。

さて、昨年末から本年1月にかけて、ノロウイルスが猛威を振るい高齢者施設・医療機関での集団感染、死亡事例が報道各社の紙面を賑わしていたことは皆さん周知の事と思います。ウイルス、細菌は、まさに目





遣い（コミュニケーションに含まれると思います）がそれに該当するのだと思います。職員の一言がご入所者様・患者さんの気持ちを明るくも暗くもします。

最近、世の中が元気の無いせいか、職員同志の挨拶に元気な声と笑顔が少なくなっているとの印象を受けています。同じ職場の仲間が無言ですれ違うとしたら、職員間にとどまらず、ご入所者様・患者さんとのコミュニケーションにもいささか不安を感じさせられます。

ほほえみの郷では、また開設の頃のような元気な声をお互いに掛け合ひましょう。元気な発声は、ご本人自身にも自然と気合が入り、応じる側の元気付けにもなり、元気な声がこだますることは、ご入所者様はもとより施設を明るく活き活きとした雰囲気になります。ファミリーレストランの元気な「いらっしゃいませ！」が明るさと親しみを感じさせるように…。心掛けをお願いします。

肌寒さを感じる折柄、呉々も体調には気を付けて年末・年始をお迎え下さい。

平成24年12月吉日

敬具

追伸：インフルエンザやノロウィルスが流行しています。万全の対策をお願い致します。

## この一年、ご苦労様でした！

小林 豊機（常務理事）：平成24年12月10日

### ■ 医療部門

この一年を通じて、各事業所でのご努力とご苦労に報いたいとの思いを込めて、本日賞与をお渡し出来てホットしています。ありがとうございます。

今年一年を振り返ってみまして、職員の皆さんに洩いことを随分発信し続けて来たように思いますが、これも平成21年に開所以来の緊張感からのものでした。

法人設立4年、老健施設の開設から3年5ヶ月が経過しましたが、今年は石井施設長並びに野口先生をお迎えしたのを始め、古守先生のほほえみ内科の開院、ほほえみ倶楽部の移転、更にはサービス付き高齢者向け住宅 東戸塚・大和に着手するなど大変印象に残る年になりました。

特に、法人としては堅実な運営を期する為に、運営の公正・透明性を推進することから石川理事長を中心にコンプライアンス委員会を発足させ、併せて就業規則や退職金制度の是正を始め諸規則の再点検に取り組んで来ました。

### ■ 介護部門

この一年を通じて、各事業所でのご努力とご苦労に報いたいとの思いを込めて、本日賞与をお渡し出来てホットしています。ありがとうございます。

今年一年を振り返ってみまして、職員の皆さんに洩いことを随分発信し続けて来たように思いますが、これも平成21年に開所以来の緊張感からのものでした。

法人設立4年、老健施設の開設から3年5ヶ月が経過しましたが、今年は、石井施設長並びに野口先生をお迎えしたのを始め、ほほえみ内科の開院、ほほえみ倶楽部の移転、更にはサービス付き高齢者向け住宅 東戸塚・大和に着手するなど印象深い年になりました。

特に、法人に於きましては、運営の公正・透明性を推進することから石川理事長を中心にコンプライアンス委員会を発足させ、併せて就業規則や退職金制度の是正などにも取り組んで来ました。

従来からの課題としては、榮田事業推進課長及び米山さんが節電対策の一環としてデマンドメーターを設置し職員に節電協力を呼び掛けて来ました。このことは、契約消費量220kWhをオーバーすると全職員で生み出した在宅復帰加算（職員一人の年報酬分）も電気代で素っ飛んでしまうとの危機感からで、悩ましい課題だけにこれからも是非、ご協力を下さい。

尚、今年の最大の課題は、介護保険改正による大幅な減算の苦境を如何に乗り越えて行くことでした。いち早く通所リハビリテーションが減収をカバーする方策として、土曜日の開所をしていただけたこと本当に助かりました。また、石井施設長のリーダーシップでご入所者様の介護度の是正、相談課を中心に稼働率を維持しながら回転率・在宅復帰率を高めると言う、正にタイトロープな難題に取り組んでいただき、11月には、稼働率99.44%・在宅復帰率39%・回転率10%と見事な成果を修めることが出来ました。

その他、松本看護部長を始め看護スタッフの皆さんからは、一人夜勤体制のご協力をいただき、岩田ワー

カー長の介護部門からは、自己負担と言われながら実は、法人の費用負担の大きい個別外出レクの抑制にもご協力をいただき感謝しています。

去る、11月16日の神奈川県老人保健福祉施設協会 事務・支援相談員合同研修会での京谷総合相談課長の報告に「厚労省は2025年に標準を合わせて、在宅復帰をしていない老健施設は淘汰（高齢者住宅へのシフト誘導）されることもある。現在、県内で在宅復帰を進めている老健は10%程度。その中でも私共は、施設全体で在宅復帰に取り組んでおり、モチベーションは非常に高く、ほほえみの郷のレベルは高いです。」とのコメントがありました。

全職員で真剣に、課題に取り組んできた成果ですね。

今後共、よろしくお願い致します。

平成24年12月吉日

## 職員の皆さんへ

### 石井 修（医師・施設長）：平成24年11月14日

朝夕の冷え込みが増して参りました。体調管理、自己管理をお願いします。

さて、今月は『スピーチロック』について考察してみたいと思います。

介護施設に勤める看護職・介護職の方であれば、すでにご存じの言葉だとは思いますが、スピーチロックとは、簡単に言うと器具による身体拘束とは異なり、『言葉による拘束』を指します。

看護、介護者の“言葉”によって、利用者の行動を抑制・制限したりする対応のことです。

具体的な例としては、「動いたらダメ」「早くして」「立ち上がらないで」や、「どうしてそんなことをするの」のように叱責の言葉も対象となります。

その中に、介護者は言葉による抑制とは考えずに日常的に発している『ちょっと待って』があります。このような声掛けは、理由なき行動制限のため、利用者のBPSD（認知症周辺症状）や不穏な状態を引き起こす原因となり、避けなければなりません。

しかし、どのような言葉がスピーチロックに該当するかの判断基準はありません。一般に、人間としての尊厳を傷つけるか、人権侵害に当たらないかを判断する事が求められます。現在、全国さまざまな施設、病院などで、スピーチロックの見直しや研修、勉強会などをされていると耳にします。

『ちょっと待って』という言葉が、本当に拘束にあたるか、ということになると、我々も日常的に使っている言葉であり拘束ではないのでは？ 『ちょっと待って』を拘束とするならば、“仕事にならない！”との声があるのも事実です。

高齢の方々に、自分の意思や希望を表現したり、伝えたりできない方々にとって、まして認知症が進んだ方々にとっては、『ちょっと待って』という言葉で行動を制限されることは、多大なストレスとなります。その点を意識できるかどうかが大切なのだと思います。

『今から〇〇をするから、どれぐらい待ってください』とか『こぼれて汚れてしまうからこのまま動かないでください。ふき取りますから』など、見通しや予測、説明が少しでもあるかないかで、だいぶ感情も変わるものだと思います。もし、我々が『ちょっと待って！』という言葉で納得できるとしたら、それは、『時間的待機として目処が立ち』『相手の状況を理解でき』『納得できる状態』で、初めて『ちょっと待って』が通用しているわけです。理由なき行動の制限を避けることが大切だと思います。

スピーチロックにならないケアとは、上記のような『抑止するような言葉を使わずに伝えて、安全を確保できる看護や介護』となるのでしょうか。時間に追われ、業務に追われているとついつい「待って！」と言いたくなりますが、自分が介護される側だったらどう感じるか？に思いを馳せて下さい。

『ちょっと待って』＝『待て』と言っているのと同じです。態度や情景は関係ないのです。行動を言葉で抑制している事を認識しないと、いつまでたってもスピーチロックはなくなりません。施設でスピーチロックが、無くならない理由が分かりますか？それは職員が『これくらい』『普通に』という言葉を使って、改善する意思を放棄しているからです。『ちょっと待って』という言葉がスピーチロックといわれるのであれば、その言葉を使わずにどう伝えるかを考え、日常業務に反映させましょう。

そしてこの事は、職員間、家族や友人との円滑な関係を構築する上で、応用できるテーマではないでしょうか。

各自で一度、スピーチロックについて調べ、考えてみていただけたらと思います。

## 素晴らしい皆様へ

瀬崎 忠雄（事務局長・ケアカラウン）：平成24年11月05日

「命より大切なもの」

段々と、寒くなりますが、皆様におかれましては、お風邪などひいておりませんか、厚着をして風邪なんて「吹き飛ばして」下さいネ。

そういう、私は徐々に「大風邪」をひきまして、先月の始めより「ずっ〜と」引きずっております。今は喘息に移行しないように、法人内の先生方にサポートしていただいております。皆様も体調のすぐれない時は、法人のクリニック

(中希望が丘診療所・御殿山クリニック横浜・ほほえみ内科クリニック)の優しい先生方にご相談ください。

さて、私どもの法人では「大切な命」に全職員が関わっております。以前、命とどのように対したらよいか、考え栃木の星野富弘美術館に通った事がありました。星野さんは高校の体育の先生をしていましたが、事故で首より下が動かなくなりましたが、必死のリハビリをして口で「絵」と「詩」を書き、見る人に感動を与えています。

彼の詩に「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。命よりも大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった」という作品があります。

この誌をめぐる星野氏に多くの質問が届くそうです。「命より大切なものとは何ですか」。氏は質問に対し明確に答えず、「さあ、なんでしょう。あなたが自分で探してください。本気で探し続ければ必ず見つかります。私でも見つかったのですから」と答えるそうです。その理由は、人に「それ」を教え、その時は納得しても、実は分かっていない。自分で発見しなければ心の奥に残らないという信念からなのでしょう。

先日、イルカさんの曲にふれる時がありました。何か答えを貰った気持ちがしました。亡くなったご主人が「子供にも分かる命の歌を書いて」と言われて書いたそうです。

「まあいいいのち」

ぼくから見れば 小さなカメも アリから見れば きっと 大きなカメかな？

みんな同じ生きているから ひとりにひとつずつ 大切な いのち

ぼくから見れば 大きな家も 山の上から見れば こびとの家みたい

みんな同じ地球の家族 ひとりにひとつずつ 大切な いのち

ぼくから見れば 東と西も よその星から見れば 丸くてわかんない

みんな同じ宇宙の仲間 ひとりにひとつずつ 大切な いのち

ふたつの手のひら ほほにあてれば 伝わるぬくもり まあいい いのち

ふたつ手のひら ほほにあてれば 伝わるぬくもり まあいい いのち

ララララ ララララ ラララララララ ララララ ララララ ラララララララ

法人のサービスをいつもお受け下さり、感謝いたします。皆様が「平安」でありますように、皆様が「幸せ」でありますように。

## 職員の皆さんへ

小林 豊機（常務理事）：平成24年10月15日

9月27日の運営委員会に於きまして、京谷総合相談課長より8月の入所実績が報告されました。稼働率99.27%と好成績で、回転率7%、在宅復帰率32%は、期待される老健施設の姿に近づきつつあるとの評価です。私は、1989年に制定されたゴールドプラン（高齢者保健福祉推進10年戦略）の研究会に参画、又、2000年の介護保険制度導入に伴う（同5ヶ年計画）新ゴールドプランにもかわり、そこで多くのことを学ばせてもらいました。特に病状が安定し、治療や入院は必要ないが、リハビリを含む看護や介護の施設としての介護老人保健施設には深い関心を持ちました。

門外漢の私でしたが、医療と介護が共存し自立支援、家庭復帰の実現を目的とする老健施設こそ、これが

らの時代に求められているものと以後、常に注目をして来たところです。

しかし、2009年 介護老人保健施設の運営に携わってみて、特養施設・グループホーム等の未整備の段階であったとも考えられますが、行政も老健施設が本来の役割を果たせずにいる姿を容認している姿勢に複雑な心境を覚えました。

その後、ご承知の通り2012年4月の介護保険の改正によって、老健施設としての明確な運営が求められることとなりました。

私共の施設は、特養施設でキャリアを積まれたスタッフが多く、特養型老健施設の色が強いだけに方針転換は容易ならざる課題ですが、運営委員会を中心に運営改善に取り組むことを決断。幸い石井施設長が豊富な医療知識と経験を発揮され、それを松本看護師長がサポートされ、さらに京谷総合相談課長及び田中相談員、久田相談員に於いて、より精度の高い介護への見直し等に着手され、いま在宅復帰等にも成果を収めつつあります。

しかし、なんとと言ってもご入所者様と日常生活を共にされている介護現場のスタッフの皆さんの率先した意識変革と行動が老健施設本来の姿を築き上げる原動力そのものと信じます。期待しています。

平成24年10月吉日

## 素晴らしき皆様へ

### 瀬崎 忠雄（事務局長・ケアクラウン）：平成24年10月05日

いつも、法人の事業をお支え頂き感謝いたします。

ご不満はありませんでしょうか？、ご希望はありませんでしょうか？

法人では意見箱を設置したり、請求書の発送の時に「ご意見、提言、希望」をお書きください、今後の運営に活かさせていただきます。という手紙も同封いたしております。先月より「介護相談員制度」を導入し、毎月1日、2名の相談員の方に来ていただき、利用されている方々に施設には言いにくい事も「聞きとり」を行ってもらっております。

しかし、戦中、前後の大変の中を暮らし、現在の日本国を創って下さった、淑やかで我慢強い方々から「訴え」を聞き出す事は中々、難しいです。

「どんな時」でも、「誰」でも良いので、施設に対する意見がありましたら、お気軽にお話し下さればと思います。

私事ですが今月、還暦を迎えました。一昔前でしたら、後進に譲り、もう引退の時なのですが、「働かせていただいております」。最近、以前には気が付かなかった事に気付き、理解出来なかった事が分かるようになりました。「さすが年の功!!」と冗談みたいに使っておりましたが、実際に「年の功」の意味が分かってきました。若い頃は「お金が欲しい、お金が欲しい」と思っておりましたが、最近は電気代を払う時、ガス代を払う時、水道代を払う時に「ああ、今月も支払が出来て良かった」・・・と思うようになりました。「支払える事に感謝」できるようになりましたら、「お金が無くなったらどうしよう・・・」、「支払が出来なかったらどうしよう」・・・という漠然とした不安がなくなりました。むしろ、日々、生きている事に喜びを感じ「不安が一掃」されました。・・・

可笑しいですね、「同じお金を払う」という行為なのに感謝して支払うと「心が豊」になります。そういうプラス思考になるのが、「良き老い方」なのかも知れませんネ・・・。

もう少し、歳を重ねますと「利用されている方」の気持ちも、もっとわかるかも知れませんが、そこまで在籍していましたら、多方面に支障が来すと思いますので、ほどほどの時期に利用の待機者として登録をしていただく事にいたしましょう。

いつも、法人のサービスをご利用いただき心より感謝いたします。

いつも、皆様と「友」にありたいと思っております。

## 敬老会週間

### 榎本 園子（在宅統括課長・介護福祉士）

通所リハビリテーションでは9月10日から15日の6日間は「敬老会週間」として、ご利用者様の長寿をお祝いさせて頂きました。昼食はお祝い膳として懐石弁当をご用意させて頂きました。どの方も「こんなたかさんのご馳走は食べれないわ～」と言いながらも、「美味しいから食べちゃったわ!」と完食!! 職員の中には毎日お祝い膳を食べていたら1.5kg太ってしまったとか…。またソプラノコンサートやゴスペルやフラダンス、ハーモニカ演奏など多くのボランティアさん達が素敵な催し物を披露してくださり、敬老会に花を添えて頂きました。

(今年のプレゼントはコイン&キーケースです。)



## 職員の皆さんへ

### 石井 修（医師・施設長）：平成24年9月14日

まだまだ残暑厳しい日が続いておりますが、やっと朝夕の涼しさや日の短さに秋の足音を感じるようになりました。

みなさん、夏バテなどしていませんか？ 過ごしやすくなってきたこのような季節こそ、実は自律神経のバランスが乱れています。季節の変わり目には体調も崩しやすく、精神的にも落ち着かず、注意散漫になるのも春や秋の特徴とも言われています。十分な睡眠をとり体調管理に普段以上に気を遣い、事故のないように過ごしてください。

そんな中、気になるニュースが先月末に話題になりました。

製品評価技術基盤機構（NITE〈ナイト〉）の調べにより『介護ベッドの柵や手すりに頭や手足が挟まるなどの事故が2007年度からの5年間で179件発生している』という事実が明らかになったものです。ニュースや新聞で目にした方も多いと思います。

この過去5年の間に起きた事故のうち、同一業者のリコール事例を除く136件を分析したところ、死亡(36件)、または重傷(42件)を負う重大な事故に至ったケースが全体の約6割を占めており、毎年度15件のペースで発生しており、減少傾向にはない現状も浮き彫りになりました。

そして一番大切なことは、この注意喚起の中に、「介護する人の対策で防げる事故がある」と呼びかけていることにあります。確かに事故件数の詳細は、死亡または重傷を負った事故のうち半数以上が家庭内で起きていたとあり、特に介護経験の浅い年数でご家庭での事故が多い（介護ベッドを使いだして2年未満）とのことですが、記事の中で葛谷弘之製品安全調査課長は「高齢化で在宅介護が増える中、介護に不慣れな期間に事故が起きる場合が多い」と指摘する一方で、病院内で19件、介護施設11件と件数が続いていることも事実であると指摘しています。これは、病院や施設に於いても、勤務経験の浅い従業員にも言えることであり、また、病院と施設を合わせて30件もの事故があるとすれば、ふとした不注意からいつでも誰でも、どこであってでも起こりえることとも言えます。

これらデータが明らかになってきたのも、2007年から重大事故報告制度が始まったことによります。それ以降、事故の未然防止のため、3年前からJISを改訂し、手すりのすき間についての基準を強化するとともに、2010年10月には、経済産業省から『ベッドの製造事業者等に対して、対策部品の取り付けに関する施設管理者等への周知徹底の要請をする』などの政府の動きがあったにもかかわらず、発生件数は横ばいであり、減少されない事実があります。事故内容は、『ベッドと柵の間に首や手足を挟まれる』『手足が挟まった状態を気づかずにリクライニング動作を行うことによる骨折、皮膚剥離』などと続いています。

日ごろから入所者さまの安全管理には常に尽力していただいていることと思いますが、このようなニュースを目にし、ここで再度、ベッドの取扱いや体位交換や移動に伴う注意など、当たり前に行っていること、慣れていることに対し、あらためて再三の注意と、各自の安全管理に伴う意識のあり方に向けて、周知徹底をいたしたいと思えます。

これから先も、このほほえみの郷からこのような悲しい事故が発生しないことを願いながら、冒頭にも書きましたように、スタッフのみなさん自身の体調管理や気分転換など、ご自身の心身のケアに対しても、くれぐれも意識を向けていただきたいと切に願います。

## ご入所者の皆様へ

### 瀬崎 忠雄（事務局長・ケアクラウン）：平成24年9月12日

介護が必要になったら不幸でしょうか？ 病気を持ったら、かわいそうな人たち…なのでしょうか？ 障がいを持たれた方が手記で、「私は障がいを持ったことを不幸とは思ってはいません。ただ、障がいを持ってこの日本に生まれたことを不幸と思っています」と書いていました。支援が必要でも、障がいを持って、病気があっても、それがすなわち「不幸」ではありません。そこには人間の「尊厳」があります。私達はその「尊厳」に真摯に向かい合いたいと思うのです。

ただ、不幸ではないけれど負荷のある人生では、やはりご本人もご家族も、より良い時間を過ごすために悩みや苦しみを背負いながら、楽でない生活を強いられます。何が人の心を不幸にするのでしょうか？ どうすれば幸せを、より感じる時間を過ごしていけるのでしょうか？

「ちとせ・ほほえみ医療グループ」は来られる利用者（患者）様、ご家族様、生活する地域、職員、そして仕事に対して、次の事を大切に考えています。

「寄り添う事」、「優しさと厳しさを両方持つ事」、「骨格のしっかりした組織にする事」、「共に生きる事」・・・

人は本質的に、地域社会の中で生きています。施設といえども、地域との交流を大切にして、ご利用者（患者）様が地域の中の一員として過ごせることを大切にしたいと願っています。

私達の仕事は、人間として生きる究極の仕事であると思っています。その方たちの立場に立ち、その人生にかかわらせていただくという、「厳粛」で、そして極めて人間らしい「温かい」仕事に私たちは就いています。その機会を与えて下さったことに感謝し出来る限り貢献できる自分達であることを改めて誓いたいと思います。